

第13回建物視察会

「山梨・静岡地区 建物視察会」を案内して

静岡県庁交通基盤部
日本建築美術工芸協会会員

早津和之



平成30年12月7日と8日に、JR甲府駅に集合して、好天に恵まれ36名の参加のもと、いつものようにハードな視察会がスタートしました。

私は静岡県の建築工事統括として、配布資料を準備して車中で説明を行い、案内人として参加者が満足いたたける視察会を中心掛けました。

1日目の「富士山世界遺産センター」では設計趣旨から建物の特徴や工事の苦労話をさせていただきました。2日目は展望施設「日本平夢テラス」では富士山が見れず大変残念でした。富士山静岡空港近くの「ふじのくに茶の都ミュージアム」ではお手前での静岡茶を嗜んだり、お茶所静岡ならではの風情を楽しんでもらいました。

最後の「ROGIC」では、視察会に参加の建築家の小堀哲夫さん自らに概要を説明してもらい、施設内外を歩き回りました。
(→27p 参照)

<1日目> 山梨文化会館

最近、免震工事を行って丹下健三の設計趣旨を活かしたリフレッシュ工事を行った。

山梨県立美術館

ミレーの展示で有名な美術館で、前川國男の設計思想を活かし、維持管理でよく使われている。

富士ハーネス

東大の千葉学設計の盲導犬の訓練施設で、富士山ろくの大きな空間に建っている。

富士山世界遺産センター

8,000ピースのムクのヒノキ材からなる、逆さ富士をイメージした、センターが富士山本宮浅間大社近くに建設された。逆さ富士が映る水盤にも、建築家坂茂は力をいれた。内部はスロープとなっており、富士山頂への登山体験もイメージできる。途中の休憩所には富士塚があり左官 挟土秀平さんの作品がある。喫茶コーナーに坂さん設計の紙管を使った椅子が並ぶ。50万人が来館。

<2日目> 日本平夢テラス

昨年11月3日にオープンして30万人が来館。プロポーザルにより隈研吾が選ばれ鉄骨構造にヒノキのムク材を天井組や階段、天井のルーバー材に、外壁にはスギの板材による大和張により8角形の展望台を設計した。展望回廊は静岡市が発注、県はシンボル施設を発注した。木材は主に静岡市内の材料を用いていた。

朝一番で観光客も少なく、この場所からみる富士山はまさに絶景だが、今回は顔を見せ残念。展望回廊からは、羽衣の松で有名な三保の松原から、南アルプスまで360度のパノラマが楽しめる。

草薙総合体育館(このはなアリーナ)

プロポーザルにより建築家内藤廣が選ばれ、屋根荷重を受けるスギ集成材14mや天井や壁ルーバー材として、静岡県西部の天竜の产地から約940m²を使用した、バスケットコート4面をもつ楕円状の体育館が平成27年4月に竣工した。中間免震層となるRC水平リングをもち、重要度係数1.5をもつ耐震に配慮した建築物で施工難度は当時全国一難しい建物であった。居心地のよさはすばらしい建物である。

ふじのくに地球環境史ミュージアム

県立高校の廃校を活用した全国47番目となる県の博物館で、地球環境に注目し、展示に高校の机や椅子を利用し、展示内容にも工夫を凝らした結果、DSA日本空間デザイン賞の大賞を受賞した。

ふじのくに茶の都ミュージアム

旧金谷町が所有していた建築物を静岡県が購入してリニューアルオープンした施設で、世界のお茶から日本茶までお茶の栽培から効用まで情報発信し、レストランやお土産ショップが充実した。綺麗さびの小堀遠州の庭や茶室を復元しているので必見。

ROGIC

日本建築学会賞とJIA建築大賞を同時に受賞した建物で、内部写真は撮影不可で、小堀さんから写真はがきセットのプレゼントをいただき、感謝。階段状の立体空間に、ガラス屋根から柔らかな光が入り、前面の池からは風を取り入れるなど環境に十分配慮し、検証も行っている。黒を基調にしたテーブルや椅子が印象的で、快適な居場所を巧みにつくりだしており、研究者に評判がよいとのこと。



日本平夢テラスを望む

感性を刺激するワークスペースの創造

株式会社小堀哲夫建築設計事務所

小堀哲夫



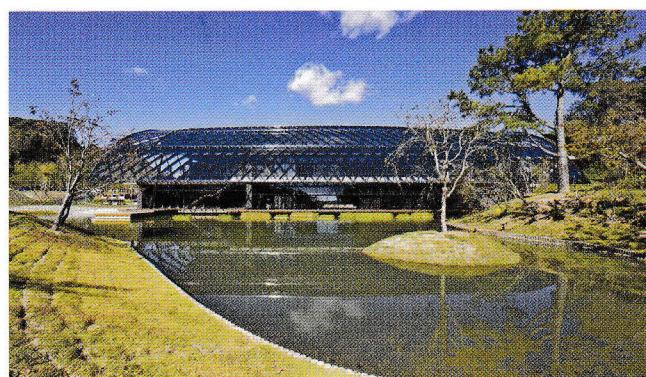
古来より日本人は、外部環境との対話の方法に長けていた。戸や障子によって外部との折り合いを緩やかにつけながら、より美しく豊かな生活環境をつくり込んできた日本人の感性は、世界に誇れる一つの独自性である。

人は、風光明媚な場所であっても、そこに何もないと美しさを感じにくい。しかし、そこに建築ができることによって、「光はこんな風に変化するのか」「こんなに風を気持ちよく感じられるのか」と、その場所性を理解できる。

「ROKI Global Innovation Center-ROGIC-」の敷地は、非常に自然豊かな場所である。場から感じられる「心地よい環境」をそのまま室内に取り込むことが、この建築の役割であると考えた。しかし、これまでの近代オフィスにおいては、フラットではない環境や、自然環境の変化を建築に取り入れることは「よし」とされてこなかった。そもそも均質空間やユニバーサルスペースは、世界中で通用する普遍的な価値であるという考えをもとにしている。場所の特性にかかわらず同じような場を生み出すことで、近代オフィスの発展に寄与してきたのである。

私たちは、もう一度自然と共生した日本人の美的センスや感性を取り戻しながら、現代の技術で新しいユニバーサルスペースを創ろうと考えた。

ROGICは近代オフィスとは逆の考え方をもっている。土地のアラウラや敷地の自然環境を取り込むことで、空間も環境も自然とともに変化する。環境と対話しながら、人間は働くことになる。室内環境を一定に保つことを放棄して、曖昧性や不均質性を追求し、ゆらぎのあるオフィス空間をつくる。これこそがこの建築の大きなコンセプトであり、脱近代オフィス、ないしはこれからのオフィスのあるべき姿だと考え、人間と働く場の在り方を問い合わせ直すことを大きなテーマとした。



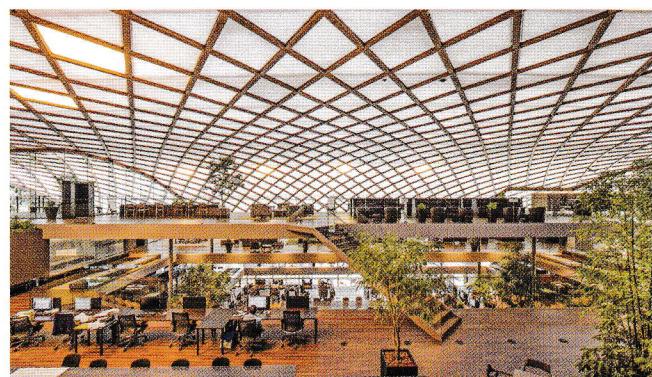
(撮影:新良太)

研究施設という特性上、実際には直射日光や空調の劇的な変化を避ける必要があったため、より自然に近い“半外部空間”からより機械に近い“均質空間”がなだらかに変化する「グラデーションオフィス」という要素と、ガラスの大屋根とフィルターハウスでドーム状に全体を包み込む「フィルトレーションルーフ」という要素、この大きな2つの要素によって空間を構成した。

建築の体験として圧倒的に感じられる、木格子天井と「ロキフィルター」による「フィルトレーションルーフ」は、この企業のアイデンティティである。障子のような素材感をもつ「ロキフィルター」によって、ガラスの大屋根から降り注ぐ直射日光は柔らかい光へと変わる。陰であったり、映る木々の揺れだったり、自然を映し込むマチエールとなり、人々を感動させるキャンバスとなるのである。

天竜川から吹く心地よい風が室内を通り抜け、人は働きながら移ろう自然を感じとることができる。立体的に積層したワンルームのオフィススペースは、間の連続でエンジニアに一体感をもたせ、俯瞰する視点を生み出す。ゆらぎのある空間や俯瞰的な視点、働く場所を自発的に選択していく動きは、エンジニアの創造的な思考に影響を与えるものと考えている。

2013年10月に稼働し始めてから5年が過ぎた。エンジニアとの会話から、「こんな気持ちのよい場所を見つけた」という言葉を聞くたびにとてもうれしく思う。なにより驚いたのは、入居してすぐにエンジニアがおののの感性に響くスペースを見つけ、自発的な運用提案要望が出ていることである。すべてが機械仕掛けではなく、人が自然の一部として感じられる建築空間を取り戻すことで、より豊かな発想や自発的行動を生まれ、研究所全体がさらに変化していくことを願ってやまない。



(撮影:新井隆弘)

事務局だより

■新入会員・会員の異動 2019年1月～3月(敬称略)

2016年9月 個人情報保護法の改正が成立した事を受け、個人は氏名のみ、法人は会社名・代表者又は担当者を掲載致します。

《新入会員》

個人会員	ユール・フィル(美術家)、 三瓶奈美(アジア開発銀行研究所)、 水谷誠孝(名古屋学芸大学)、 加藤令吉(彫刻家)、		
法人会員	(株)イビデン グリーン テック	東京支店営業部長 佐藤洋一 担当 代表者と同じ	〒141-0031 中央区日本橋馬喰町 1-14-5 日本橋Kビル3F TEL.03-5847-8731
法人会員	(株)日鋼 サッシュ 製作所	東京支店長 峯 吾郎 担当開発営業 鈴木 誠	〒335-0025 埼玉県戸田市 南町7-8 TEL.048-447-4411

《会員の移動》

個人会員	小岩金網(株)	氏名変更	西村康志 (前 高橋 賢)
法人会員	ナブコシステム (株)	住所変更	〒100-6032 千代田区霞が関3-2-5 霞が関ビル32F TEL.03-5251-3848
法人会員	太陽工業(株)	担当者変更	首都圏営業本部 第2営業部長 藤岡誠二 (前任 中島康友) TEL.03-3714-3470
法人会員	三基ルーバ(株)	担当者変更	営業部部長 村上 勉 (前任 秋山光和) TEL.03-5645-7888
法人会員	(株)ユニオン	担当者変更	営業部営業開発課 沼田健一 (前任 土屋照雄) TEL.03-3630-2058

編集後記

会報83号(春号)では、昨年12月12日に開催されました平成30年度 設立30周年特別記念会、第28回日本建築美術工芸賞表彰式、特別功労賞表彰式を特集いたしました。日本建築美術工芸賞は、今回から公開審査が行われ、今後の公開審査実施に向けた検討も行われています。また設立30周年を記念して、日本建築美術工芸賞にAACCA賞、芦原義信賞(新人賞)に加え、建築家・美術家・工芸家・デザイナーたちが連携協力し、芸術性豊かな環境と景観の創造を目指した作品に贈られる美術工芸賞が設けられ、協会の設立趣旨に叶う日本建築美術工芸賞になったのではないかというご意見もいただきました。

また、「時代の華一輪」では今回の特別功労賞を受賞された飯野毅一会员をご紹介しましたが、飯野毅一会员は、協会設立当初からの会員ということで設立30周年に相応しいお話を伺うことができました。

会報は、協会活動に長年携わられた方々から新しく会員になられた方々のご活動を幅広くご紹介していきますので、会員皆様からの寄稿もお待ちしております。

aaca 2019.4 no.83

発行人 会長 岡本 賢
発行 一般社団法人 日本建築美術工芸協会
〒108-0014
東京都港区芝5-26-20 建築会館6階
TEL 03-3457-7998 FAX 03-3457-1598
URL <http://www.aacajp.com>
E-Mail info@aacajp.com

編集 広報委員会
委員長 飯田郷介
会報担当副委員長 野口真理
会報編集委員 五十嵐通代 石田真人 置鮎早智枝
竹生田 正 田島一宏 中村弘子
松本治子 三上紀子 山崎和子
山崎輝子 山下治子 吉田 誠

編集制作協力 株式会社 アム・プロモーション